

北海道から 岩手県へ

氏名 太田 政代

北海道根室市立花咲小学校 → 岩手県盛岡市立津志田小学校

(期間：平成26年4月1日～平成28年3月31日)

1 岩手の学力向上等の取組

□ 確かな学び、豊かな学びプロジェクト「いわての授業づくり3つの視点」

本県では、「いわての授業づくり3つの視点」で、児童生徒の「確かな学び、豊かな学び」の実現に向けて全県で共通して取り組み、学校での組織的な対応を展開していくことで、児童生徒一人一人の学力を保障し、豊かな人間性の育成を図ることを掲げている。

「いわての授業づくり3つの視点」

視点1 学習の見通し

■ 児童生徒の姿 ■

- ・ 学習課題(学習問題)を設定し、学習のゴールを見通す
- ・ 学習課題(学習問題)の解決に向けて、学習内容を見通す
- ・ 学習課題(学習問題)の解決に向けて、学習プロセスを見通す

視点2 学習課題(学習問題)を解決するための学習活動

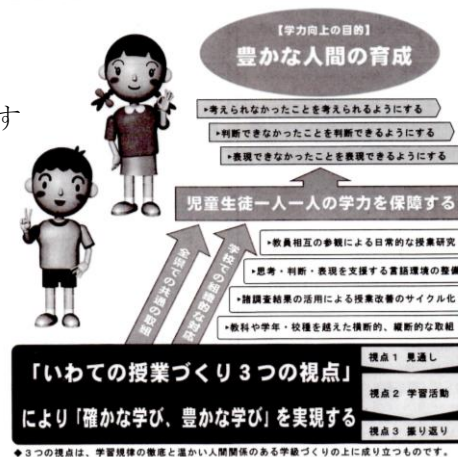
■ 児童生徒の姿 ■

- ・ 学習課題(学習問題)を解決するために学習活動をする
- ・ 一人一人が学習課題(学習問題)を解決する

視点3 学習の振り返り

■ 児童生徒の姿 ■

- ・ 学習内容を振り返ったり、学習の成果を実感したりする
- ・ 学習プロセスを振り返ったり、協同的な学習活動のよさを実感したりする



2 派遣校の学力向上等の取組

派遣先校である津志田小学校は、盛岡市の南側中央部にあり、新興住宅やマンションの増加に伴い人口増加が進んでいる地域に位置する大規模校である。

学校・家庭・地域・中学校との協働による教育の推進が行われており、確かな学力の育成を図るため、教職員が共通理解を図りながら学校全体が同一方向で組織的、系統的、継続的に取り組んでいる。

(1) 津志田小スタンダード

学習のきまりとして、学習用具や学習準備、話し方や聞き方、ハンドサインなどが学校全体で統一した指導が行われている。

また、学習中のノートの書き方も具体的にスタンダードとして示されている。学級担任や学年が変わっても、「津志田小スタンダード」による統一した学び方の指導により、問題解決型の学習スタイルが定着している。

例えば、学習中のノートの書き方の視点として、

- ① 本時のねらいに即した課題（めあて）が書かれているか。
- ② 授業展開や学習内容が分かるノートになっているか。
- ③ 児童の考えが書かれた（児童の思考過程が分かる）ノートになっているか。
- ④ 課題に対するまとめ（本時の学習のポイント）が書かれているか。
- ⑤ 児童による「授業で分かったこと」等の振り返りが書かれているか。

という、項目が示されており、その児童のノートを活用して、自分の授業を振り返り、授業改善につなげている。

(2) マスタープリント

計算と漢字の基礎・基本の定着を目指したマスタープリントは、各学年の単元の内容毎に構成されている。具体的に、水曜日は漢字、金曜日は計算のミニテストの実施日として朝学習の時間に全校一斉に取り組んだ。四則計算や漢字など、基礎・基本の確実な定着のための取組が行われていた。

(3) 家庭学習

家庭学習は、課題と一人勉強を行い、時間は学年×10分＋10分としている。丸付けに関して、低学年は保護者が行い、高学年は自分で行うことを基本としている。

(4) 朝学習

マスタープリントと連動し、計画的に進めるだけでなく、15分間という限られた時間を最大限に生かし、個別指導の充実に合わせていた。朝学習の時間には、学級担任以外の教員が計画的に各学級に配置され、個に応じた手厚い指導が行われている。

(5) 読書活動

読書意欲を高め、本を読む習慣化を図るため、図書指導計画のもと、各学年に応じた目標冊数を達成した児童を表彰したり、図書館祭りを実施したりするなど、図書環境が整備されている。

3 北海道に戻って実践したいこと

□授業の構造化

- ・課題とまとめを明確にした授業を実践する。
- ・全員参加の授業づくりの教材研究の視点として、指導内容を明確にするとともに、それに対応する課題を設定し、焦点化、視覚化、共有化を図る。

□ICTの効果的な活用

- ・一人一人のニーズに基づく個に応じた指導の一貫として、目的を明確にしてICTを効果的に活用する。